

ボクのかっこよくなるストーリー

高瀬あきと

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

Cure2Tronのマイリーが妹とささいな事で言い合いになり、かつこよく、男らしくなりたいと思いい悩む。

そんな時にOSIRISの高良京と偶然に出会う。

目次

ボクのかっこよくなるストーリー

ボクのかっこよくなるストーリー

「疲れたあ……………」

学校から帰宅して早々に着替えもせずにベッドに横になる。

「今日は何もしたくない……………」このまま寝たい……………」

夕べも…………違うな。今朝までか。

何だかんだあつて朝まで練習してそのまま学校だったもんな……………」

みんな元気すぎるよ……………」

数日前にエデンでボク達Cure2TronとOSIRISとで
合同ライブをやった。

ボク達も聴きに来てくれたファンのみんなも、

大盛り上がり最高の1日になった。

四響のラファエルに勝ったOSIRIS。

四響のアダムに勝ったCure2Tron。

そんなバンドの合同ライブだもんね。

みんなの期待や、ボク達の歌への思い。

何もかもが今までの非じゃない。

頑張らなくちゃ。って思ってる。

この前はたまたまアダムさんに勝てただけだ。

アダムさんもきつともつともつと上手くなって……………」

今度こそ…………結婚させられるかもしれぬ……………」

いやいやいやいや!!

「ダメダメダメダメー!!!」

つい叫んでしまう。

「もつと上手くならないと……………」

でも今日は本当に何もしたくない。

ゴロゴロしながら先日のライブを思い出す……………」

OSIRISは本当にすごかった。

曲もパフォーマンスもすごくかっこ良かった。

あんなかっこいい曲も歌いたいな。

「あっ!!!!そういうえば!!!!」

OSIRISで思い出した!
こないだライブ終わった後にレイさんに新作のDVD借りたんだっただった!

何もしたくない気分だったけど、
せつかくレイさんが貸してくれたんだし、
練習も今日は休みだし…

うん。今から観よう!!

あ、ちよつと元気出てきたかも。

えつと確かこつちの鞆に…

「お兄ちゃんー!さつきからうるさい!!!!」

「うわああああ!!?ア…ア…アヤ!?!」

アヤが突然オレの部屋に入ってくる。

良かった…DVD再生する前で…

途中(?)で入ってこられてたら社会的にも兄としても色んな意味で死んでた…

「へ…部屋に入る時はノックくらいしろよ!」

「さつきからうるさいの!」

つてまだ着替えずにベッドでゴロゴロしてる…汚い…

え?今汚いつて言った?

いや、お兄ちゃん汚くないよ?

「ほんとくに情けないお兄ちゃん…かつこわる…」

いや、ちよつと疲れてるからゴロゴロしてただけだよね?

「はあ…OSIRISってバンドのボーカルさんに高良京さんって人いるんだけど」

あ、京さんの事知ってるんだ?

こないだの合同ライブに来てたのかな?

「お兄ちゃんと違って男らしくて本当にかっこよかったよ!」

ム…そりゃ京さんはかっこいいけど…

「いつもいつもゴロゴロして!!お兄ちゃんももつと…!」

「あー!!もううるさいな!!」

オレだって疲れてるんだよ！もう部屋から出てけよ!!」

「ちよっ！お兄ちゃん!」

そう言つてアヤを部屋から無理矢理追い出して、ドアを思いっきり閉めた。

『お兄ちゃん!?!お兄ちゃん!?!』

アヤが何か言つてるけど無視する。

しばらくするとアヤも自室に戻って行ったようだ。

はあ……やり過ぎた……かな？

でもいつもいつもうるさいんだよ……。

オレだって……頑張ってるのに……。

はあ……もうDVD観る気もなくなっちゃったよ……。

そして瞼を閉じるといつの間にか眠っていた。

〈翌日〉

「今日の練習は休みか……。」

ユキホは家の手伝いで、ミントは部活が忙しいらしい。

シエリーは誘えば付き合ってくれそうだけど、昨日のアヤとの事を思い出すと何となく一人で居たい気もするんだよね。

「このまま家に帰るのもな……。」

久しぶりにヒトカラでも行こうかな？」

歌いたいて気分じゃなかったけど、何となくアヤと顔を合わせづ

らしい……。

そんな事を思いながら歩いていた。

橋を渡る途中でふと橋下を覗いてみる。

「男らしく……か……。」

Cure 2 Tronの事が好きだし、

今はマイリーとして歌っているのも楽しい。

でも、男らしくなりたいとは思いうし、かっこいい曲も歌いたいたいとは思う。

こないだのOSIRISかっこよかったな……。

「かつこいい人の真似でもしたら、かつこよくなれるかな？」
って言っても京さんみたいに…

あのポエム？ってやつ？

あんな台詞オレには言えないし……。

「あ、そうだ……」

ダンテさんもかつこいいよね！

ダンテさんみたいな感じならいけるかな？

「お前も…絶望を楽しめ…（ボソツ）」

ダメだダメだ……。

台詞だけ真似したって何にもならないよ……。

「はあ……」

オレは大きな溜め息をついた。

—少し前の時間—

今日はバイトも練習もない。

こんな日は自宅で読書もいいのだが、

せつかく天気がいいので出掛ける事にした。

陽光を浴びながら散策する。

公園に行つてベンチで読み掛けの本を読むのもいいだろう。

「本当にいい天気だ。」

気分が高揚するとはこんな事を言うのだろうか？

久しぶりにあの場所に行つて歌うのもいいかもしれない。

そんな事を思いながら公園に続く道を歩いていた。

ん……？学生？

橋の真ん中付近で橋下を覗きこんでいるようだ。

何か大事な物を落としてしまったのだろうか？

それとも珍しい魚でもいるのだろうか？

……釣りもいいかもしれない。

そんな事を思いながら後ろを通りすぎ過ぎようとした。

『絶望……』

!?

『はあく……』

!?

『ダメだ……』

まさか飛び降りようとしているのだろうか？

『よしー！』

そう言つて学生は身を乗り出した。

まずい……!!!

オレは学生に向かって飛び付いた。

こんな所で考えてても答えなんか出ないよね。

『ダメだ……』

ダメダメダメダメ……!!!

うん！何か気分転換しに行こう！

『よしー！』

とりあえず場所を変えよう!!

『ガシッ』

つて……ええ？

何!?何なの!?

後ろから抱き締められた!?

オレには何があつたのかわからない。
だが、このまま飛び降りさせるわけにはいかない。

何とか思い止まらせる事は出来ないだろうか？
こんな時どんな言葉を掛ければいいのか？

「は…離してください…!!」
!?

やはり飛び降りるつもりなのだろう。

オレの制止を振りほどこうとしている。

『ギョ……』

離すわけにはいかない…!!

どうか…思い止まってほしい……。

どどど……どうしよう……!?

振りほどこうとしても、離してって言っても離してくれない……。
もしかして痴漢!?

怖い……怖いよ……。

このまま……レイさんに借りたDVDみたいに……

………って違う違う!!

ちよつと待って…!?

オレ……今マイリーの格好じゃないよね？

あはは……オレ、男の格好でも痴漢に合うんだ……。ほんと泣きそう
……。

ん……?おとなしくなってくれたか…。

説得するには……今しかない……。

「落ち着くんだ。オレには何があったのかわからない……。

だが、飛び降りたからって解決するとは……。」

こんな言葉でいいのだろうか？

もつと上手く伝えられたらいいのだが…。

「え!? 飛び降り!? 何で! 誰が!？」

ん…………? どこかで聞いた事のある声だ…。

「つて、その声って…………」

そう言つては学生はこちらに振り返つた。

「きよ…………京さん…………?」

「マイリー…………?」

…

…

……………

そこから少し離れた公園のベンチに腰をおろす。

その自販機から買ってきてくれたのかな？

京さんがオレに紅茶を差し出してくれた。

「あ…………ありがとうございます…………。」

そう言つて差し出された紅茶を受け取る。

「いや…、オレの方こそすまない。」

飛び降りようとしているのかと思つてしまつて…………。」

紅茶を一口だけ口にふくむ。

うん、落ち着いた。

「いえ、オレ…………ボクの方こそ…紛らわしくてすみません。」

ご迷惑おかけしました…………。」

オレはそう言つて俯いてしまった。

京さんはオレがマイリーだと気付かずに、”誰か”が飛び降りようとしてると思つて真剣に止めてくれたんだろうな…………。

今もこうやつて気を遣つてくれる…………。

ほんと…………かっこいいな…………。

京さんはオレの隣に腰をかけてオレの方を見る。

「何かあったのだろうか？」

急にそんな事を言われてドキツとする。

えく……オレそんなに悲壮感漂わせてたのかな？

「……？」

ずっと黙ってるオレに、京さんは心配そうな目を向けてくれている。

な……何か言わなきゃ……。

「言いたくないようなら、無理には聞かないが……。」

うわあく……。すごく気を遣ってくれてるよ……。

すみません。そうじゃないんです……。

何て説明したらいいんだろ……。

「オレはあまり話す事は得意では……ない。」

あ、そうだよ。わかります。

京さんって無口な方だもんね。

「それでもオレは、言葉を交わす事は大切だと思った。

レイや真琴や進とOSIRISとしてやってきて、少しずつだが

……気持ちを言葉にするようになった。」

気持ちを言葉にする……か……。

「何があつたのかわからないし、オレに解決出来るとは思わないが

……。話を聞くことは出来る。オレでよければ話を聞くが……。」

京さん……。

優しいな……。

オレの事をすごく心配してくれて……。

よし……。

「あの……京さんは……。」

「……？」

「京さんはー！オレ……ボクの事どう思いますか!？」

え……あれ？

オレ何言ってるの!?

違う違う!!

こんな事聞いても京さんもわけわからないだろうし……!!!
(マイリーの事……?)

それはどういう意味だろうか?
どう応えるのが正解なのだろうか?

そもそも正解とか間違いつかではなく、オレが思っているままの事を言えばいいのだろうか?)

ほら、京さんも黙り混んでる…。

きつとすごく困ってるよ……!!

オレ、何て事聞いているの!?

恥ずかしい……!! 恥ずかしい……!!

(!?)

マイリーが頭を抱えて、頭をブンブン振りだした!?

オレが早く応えないから怒っているのだろうか?

やはり思ったままの事を伝えよう。)

「す……すみません! 今のは忘れ『オレは』………え?」

「オレはマイリーの歌が好きだ。」

え……?

「どんな時もマイリーは…

笑顔で歌やパフォーマンスをみんなに魅せている。

オレにはマイリーのように歌う事は出来ないだろう。」

え、え、え…?

「オレはそんなマイリーを、同じ音楽を志す者として尊敬している。」

……!?

オレの事……マイリーの事を尊敬してくれてるなんて…。

京さんにこんな事言ってもらえるなんて…!

オレを元気付ける為に…

慰める為に言ってくれてるかもしれないけど…。

すごく……顔が熱くなる……。

「それに……」

それに…?

う……すごくドキドキする……。

「以前にも言ったがマイリーは女性と言っても差し支えないと思っ
ている。」

え……………？

「すごく可愛い女の子だと思う。」

うっ……………

「うわああああああ!!!」

「マイリー!?!」

……………

……………

やっちゃった……………。

いきなり叫んで立ち上がっちゃった。

京さんもすごくビックリしてたし…。

って今もビックリした顔をしてるし。

うろう……………。

「オレ……………あ、ボクは…Cure2Tronが大好きです。

マイリーとして歌うのも楽しくて、すごく幸せで……………」

京さんは黙ってオレの話を聞いてくれている。

そしてオレは、昨日のアヤとの事をかいつまんで話した。

「ボクも男ですから、やっぱり男らしくなりたいなあ。って思う所も
あって。」

そんな時にアヤと……………妹とあんな事があって……………」

本当にアヤの言う通りだ。

すごく情けない。

こんなつまらない兄妹喧嘩みたいな事で悩んで、それを京さんに話
して。

オレが何を言いたいのかオレ自身もわからないのに…。

京さんもわけわからないよね……………。

「男らしいとか男らしくないとか、オレにはよくわからないのだが
……………」

やっぱり……訳わからないよね。
変な事言つてごめんなさい……。

「オレは話すのは得意ではないし、上手く伝えられないかもしれないのだが……。」

……？

何だろう？

京さんの次の言葉を待ってみる。

「マイリーはどんな時も笑顔で歌っていて、そうやって歌うマイリーをオレはかつこいと思う。」

あ……慰めてくれてるのかな……？

さつきは可愛いつて言つてたもんね。

気を遣わせちゃつたなあ……。

「先日の合同ライブの時もそうだが、何度目かもわからないアンコールでも、マイリーは笑顔でオーディエンスに応えていた。」

あ、あの時か。

確かに疲れたけど……。

ライブが盛り上がって、

楽しくて夢中になつて……。

「可愛いCure2Tronのマイリーの歌を、パフォーマンスを届けていた。」

もちろんマイリーだけではなく、シエリーもユキホもミントも。」

京さん……。

「オレもあの日のライブは楽しかった。オレだけじゃない。OSIRISのみんなも楽しんでいた。また、Cure2Tronと同じステージに立って歌いたかった。」

オレも……オレも楽しかった。

Cure2TronでOSIRISと一緒に歌えて本当に楽しかった。

オレもまたOSIRISと一緒に歌いたかった。

「Cure2Tronと歌っていて、シエリーもユキホもミントも、もちろんマイリーも……。」

そう言って京さんはオレに優しいまなざしを向けてくれて……

「オレはカッコいいと思った。」

慰めや励ましとか……

そんなんじゃない……

京さんのこの目は本当にそう思ってくれている。

そうだよ。そうだよ。

シエリーもユキホもミントもすごく可愛い。

でもそれだけじゃない。

シエリーにはシエリーのかっこよさが、

ユキホにはユキホのかっこよさが、

ミントにはミントのかっこよさがある。

オレはそれをよく知っている。

Cure 2 Tronは可愛いだけじゃなくて、

すごくカッコいいバンドだ。

「マイリーの言う男らしさとは違うかもしれないし、妹との事は何の解決にもなつてはいないと思うのだが……」

オレの気持ちは伝わっただろうか？」

うん、すごく伝わりました。

「ありがとうございます。」

自然と笑顔になつていた。

京さんに話を聞いてもらつて、

京さんと話をして良かった。

だからもう一度飛びつきりの笑顔で……

「京さん！ありがとうございます！」

「いや、特にたいした事は言っていないのだが……」

そんな事ないです！

本当にありがとうございます。

って、そういうやオレの今の格好ってマイリーじゃないんだよね……

なんか京さんと一緒だし、自然とマイリーって呼ばれてるから違和感なかったんだけど……

「あの……今更ですけど、今はマイリーの格好じゃないので、出来れば

”望”って呼んでいただいた方が…。」

「オレにとつては男性の格好でも、女性の格好でもマイリーはマイリーなのだが……」

……！

男の子の格好でも女の子の格好でもオレはオレ…か。

そうだよね。

オレはマイリーで、ボクは望なんだ。

それはどっちもオレで。

男らしくなりたいとは思う。

確かに昔は嫌々だったけど、

オレはマイリーが大好きだ。

マイリーとしてCure2Tronで歌えて、すごく楽しい。

すごく幸せだと思う。

無理に男らしくせずに、オレはオレのまま、オレらしくでいいんだ。

でも…

「あはは…やっぱりこの格好の時にマイリーって呼ばれてるのを知り合いには見られたくないと言うか……。特に妹の前とか……。」

偶然に知り合いに会うとかないとは思うけど……。

え？フラグ？

「マイリーの知り合いの前と言うと、シェリーやマスターの前でも…か……？」

「Cure2Tronやエデンのみんなの前では別です!!」

「………難しいな。」

顎に手を当ててすごく悩んでる。

今日一番困ってる感じだよ…!!

ふふ…こうやって見ると、

いつもかっこいい京さんもすごく可愛い。

「あ、そうだ!」

京さんはこの後何か予定とかありますか?」

「いや、今日は特に予定というものはないが」

「いつも行ってるカラオケ店の割引券があるんですよ！

なんだか今すぐ歌いたい気分で！

よかつたらカラオケに付き合ってくれませんか？」

今すぐ歌いたい気分だ。

「カラオケにはあまり行かないのだが…」

「Cure 2 Tronの曲もOSIRISの曲もカラオケにあるんですよ！」

あ、そうだ！京さん、Cure 2 Tronの曲歌って下さい！！」

「オ…オレにはマイリーののように可愛く歌えるとは思えないのだが…。」

別に可愛く歌わなくてもいいのに。

本当に可愛いな。

でも、可愛く歌う京さん見たいし黙ってしよう。

うん、なんかこういうところキホに影響受けてる気がする。

「ほらー行きましょう！」

オレもOSIRISの曲を歌うんで聴いて下さい！」

そう言つて強引に京さんの手を引っ張る。

家に帰つたらアヤに『昨日は言い過ぎた』つて謝ろう。

オレはお兄ちゃんだし、男の子だし。

素直に謝るつて言うのも男らしい行動だよね。

でも、今は京さんと一緒に歌いたい。

「あんまり引っ張られると歩きづらいのだが……。」

そしてオレ達はカラオケ店へ向かった。

……

……

……

カラオケ店の前まで来た時だった……。

そこにシエリーがいた。

今、オレは京さんを引つ張っている。

つまり手を繋いでいる状態だ。

シエリーが固まっている。微動だにしない。

まずい……説明しないと……。

「望……？」

!?

気を利かせてなのか京さんがオレの事を望と呼んだ。

いや、Cure2Tronメンバーの前では別って言うてあったよね!?

「あ、あたしは何も見っていない」

そう言っつて顔を真っ赤にしたシエリーは、スマホを取り出して走り去ってしまった……。

これまずいやつだよね……。

後日、みんなにすぐく弄られたんだけど、

それはまた別のお話。